

教育・研究などへの取組状況

総合工学システム学科 都市環境コース 准教授 大谷 壮介

項目	取組状況
教育	<p>◆ 平成28年度担当科目</p> <p>水循環工学Ⅰ(3C)、水循環工学Ⅱ(4C)、水・土質環境実験(4C)、環境衛生工学(5C)、水環境工学(専攻科2年)、基礎研究(4C)、卒業研究(5C)</p>
研究	<p>◆ 平成26～28年度における研究業績</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 著書 <ul style="list-style-type: none"> よくわかる環境工学, 理工図書株式会社, H27.4 発見! 徳島の自然と文化, H26.12 ■ 学術論文執筆 <ul style="list-style-type: none"> 大谷壮介, 鞠川純平, 川崎太輝, 田中孝一(2016): 汽水域湿地帯における二酸化炭素フラックスの季節変化, 土木学会論文集 B2-72 (海岸工学), pp.1_1444-1_1446., H28.11 大谷壮介, 川崎太輝, 大和天, 渡邊隆太郎(2015): 河口干潟における大気-海水間の二酸化炭素フラックス, 土木学会論文集 B2-71 (海岸工学), pp.1_1321-1_1326., H27.11 大谷壮介, 倉田健悟, 東和之, 山中亮一, 上月康則(2015): 河口干潟における洪水後の底生生物群集の予測方法の適用性について, 土木学会論文集 B3-71 (海洋開発), Vol. 71, No. 2, pp. 1_904-1_909., H27.9 他7件 ■ 国際会議での発表 <ul style="list-style-type: none"> Sosuke Otani, Akira Umehara, Haruka Miyagawa, Satoshi Asaoka, Naoki Fujii, Tetsuji Okuda, Satoshi Nakai, Wataru Nishijima(2016): Transfer efficiency from primary producers to <i>Ruditapes philippinarum</i> on an intertidal flat in Hiroshima Bay, Japan, EMECS11 - Sea Coasts XXVI Joint Conference, Saint Petersburg, Russian, H28.8 他1件 ■ 学術講演会での発表 <ul style="list-style-type: none"> 大谷壮介, 鞠川純平(2016): 河口湿地帯の二酸化炭素フラックスの動態解析, 応用生態工学会第20回大会, H28.9 他17件 <p>◆ 平成26～28年度における外部資金獲得状況</p> <p>物質循環を駆動する河口干潟の炭素固定機能の動態解明, 科学研究費補助金若手B, 研究代表者, 2015年4月～2018年3月</p> <p>大阪湾湾奥の河口域におけるウミニナの復活とその要因解明, 平成28年度大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成, 研究代表者, 2016年4月～2017年2月</p> <p>◆ 学会などでの受賞</p> <p>2016年8月, EMECS11 - Sea Coasts XXVI Joint Conference Best Poster Award</p>
社会貢献	<p>◆ 平成26～28年度における公開講座・出前授業の取組状況</p> <p>寝屋川再生ワークショップ水辺の市民活動, H26-28</p>

